

2005 年 2 月 16 日

イチ

126 ページ

////////////////////////////////////

1. ラテンアメリカのベストセラー作家、イザベル・アジェンデの作品、「日本人の恋人」は、主人公「アルマ」と、アメリカへの日本人移民 2 世「イチメイ（一命）」の物語。戦前の「移民」の生活がよくわかる名作です。
2. イザベル・アジェンデは、1942 年、ペルー生まれのチリの作家。ジャーナリストとして活躍中の 1973 年、叔父のアジェンデ大統領が軍事クーデターで暗殺される。迫害にあいながら執筆した「精霊たちの家」（河出文庫版、上・下、木村裕実訳）が絶大の反響を呼びました。
3. 「エバ・ルーナ」「エバ・ルーナのお話」（白水社ブックス）、「天使の運命（上・下）」（PHP 研究所）など、2018 年時点で 23 作品、累計で 7000 万部を世界の読者に届けています（本書、317 ページ、訳者あとがきより）。

4. スペイン語圏の文学作品は、スペイン在住の翻訳家、ファンの一人である木村裕実さんの翻訳作品を中心に時折読ませていただいておりますが、この「日本人の恋人」が、最も読みやすく、また、内容的にもじっくりなじめたように思います。

5. アジェンデの 3 部作、「精霊たちの家」「エバ・アジェンデ」「天使の運命」は、南米の政治的背景を踏まえた、手に汗握る、ジャーナリスティックな作品です。小説という形をとる「調査報道」ともいえる作品です。

6. この「日本人の恋人」も、大戦前の、ユダヤ人・日本人移民と高齢化社会を取材対象とした「調査報道」ベースにした作品。綿密な構成を目指し、数年かけて作品を書き上げるため、一度読み始めると本が手から離れなくなります。

7. 23 作品で 7000 万部、一作品、200 ～ 300 万部の読者をひきつけるイサベルアジェンデです。是非、ご挑戦ください。サンフランシスコ在住、情景描写は最高です。

8. 引用の文章は、「教育の本質に迫る」内容ですので、是非先生方に紹介させていただきたく思いました。

9. ＜本の選び方＞

(1) この人の作品はという、「著者・作者や翻訳家」が、各ジャンル（分野）に、何人かおられます。代表作の何冊かをまず読み、目に触れた作品を読む。

○「イサベルアジェンデ」の 5 作品は、木村裕子さんが翻訳した「天使の運命」がきっかけでした。

(2) 親しい人から「この本はいいよ」と紹介された本。講演会などで話を聞き、この人と思った人の本。

○松本崇著「武器としての日本語」は、「この本は読むといいよ」と友人から読み終えた本を頂いたのがきっかけでした。

(3) 今まで読んだ本で、もう一度読みたくなった本。

○これはたくさんあります。

皆様は、どのように本を選びますか。

よろしくお願いいたします。

お体お大切に。